教文研だより

題字・宮島 肇

kyobunken 2022.1 180号

CONTENTS

「SDGsの学習・活動－何が大切か」

横浜国立大学 教授 金馬 国晴

神奈川県教育文化研究所は、子どもたちの学びや教職員の働き方改革などの観点から研究協議を進めています。現在、カリキュラム総合改革委員会第１グループでは、コロナ禍での子どもたち一人ひとりの学び、現状の課題等について実践事例を持ち寄りながら意見交換を行っています。

さて、2015年に国連でＳＤＧｓが国際目標として採択され6年が経過しました。政府・企業・自治体・各種団体・個人などによって現在多くの取り組みが進められています。一方、学校においては、2017年3月公示の小中学校新学習指導要領の前文に、「これからの学校には、（中略）持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」という一文が加えられました。さらに、ＥＳＤ推進拠点としてのユネスコスクールを全国1120校に位置づけました。

そこで、今回の「教文研だより」では、カリキュラム全般に詳しい横浜国立大学の金馬国晴先生に学校教育におけるＳＤＧｓの学習についての論考をお願いしました。

＊宮島肇先生(題字):初代1981～1984年神奈川県教育文化研究所所長・研究評議員

神奈川県教育文化研究所

SDGsの学習・活動
－何が大切か

横浜国立大学教授
金馬国晴

CMやニュースを観ても、雑誌を読んでも、例の17色のカラフルなアイコンや円をよく見ないか。NHKからかわいい「SDGs 17目標のおぼえうた」も流れてきて、我が子達も口ずさんでいるが、皆さんの学校の子達はどうだろう。

だが外国でこそ広がっていて、日本ではまだ途上のようだ。私は横浜市のESD推進コンソーシアムに加わって、教育委員会や校長先生達だけでなくNGOやリサイクル組合など広い人達と議論し、パンフや冊子を作り、研究授業や全国集会に参加してきた。そうして、授業化するにはいくつかの発想と視点が要るとわかった。

●ある中学校の生徒達の討論－感情的に

それらの点が、とある中学校のオンライン公開授業でみた子ども達の討論のうちに凝縮されていた。事前視聴の録画に含まれたある班の録音を聴いて、感心した。途上国役Aと日本役B～Dに分かれてのロールプレイである。たっぷり紹介したい（感情的な発言を太字にする）。

B：やっぱり環境保全の方が経済発展より大事だと思います。なぜかというと、環境を考えないで経済発展を進めた結果、**経済発展どころじゃなくなっちゃう**と思うんですよ。

A：でもあなたたちの国（日本他先進国）って、**今までどんどん発展してきましたよね。自然めっちゃ壊してきましたよね。なんで私たちのときだけそういうふうに言ってくるんですか！**

B：私たち（日本のような先進国）が先に発展したせいで、環境破壊が進んでしまったかもしれませんけど、それで、実態とかがわかったわけじゃないですか、具体的に。**だからまあ、皆さんに協力してもらいたいんですよ。**

⇒いかがだろう。AとBの感情的な言い合いに読めたろうが、社会性・情動スキルの教育（SEL）ということで、めざしていたやりとりという。東京学芸大学附属世田谷中学校の生徒達で、教師が途中で改めて求めていたのが「感情を示しながら相手の感情を意識して、どう言ってあげたらいいのか」だ。当事者になりきった切実感や深刻さが見えて、私はいいと思った。附属だからできるで済ませていいものか。学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」を育成する、と書かれたが、だからやらなければという義務感では足りない。この子達ほど感情的に言い合えるくらい、深い学びがほしい。実際に、感情を込めた国際的な対立があるからだ。教室でのこの討論が「リアルに」現実を映し出している点に、様々な立場に共感してきた学びが読み取れ感心したのだ。

●対立的な現実からのパターンや構造の抽出

A：そういうのを改善していくための**お金を出さない人もいるじゃないですか。**お金がある人だったらできるかもしれないことが、ないのでできない人がいる。・・

B：**じゃあ**お金と命のどっちが大事なんですか。

A：いや、お金がないと**命や環境なんか守れない**と思う。**タダで環境が守れますか？** まず発展を優先させることが大事なんですよ。
（中略）

B：発展するためなら**環境を犠牲にしていいんですか？　そうお考えになるんですか！**

A：日本としてはどうなんですか。

B：日本は金なんでしょ？

C：金がなきゃ自然は守れない。

A：**そうだそうだ！** 金がなくて自然が守れる**方法を教えてください？** 何をするのか・・。

B：第二次産業をあまり発展させないで、第一次産業でがんばればいいんですよ。

A：**そんなこと私たちに押しつけてどうするんですか。あなたたちの分の「しわ寄せ」がこっちに来てるんですよ！**

B：それは、**申し訳ないですけど、やっぱりどうにもできないじゃないですか。**要は今改善すれば、もっと環境破壊が進む「前に」改善できるんですよ。

A：私たちはどうしたらいいんですか？ **死ねっていうんですかー！**

C：さっき言ったような環境保全の対策をとれば、環境は守れる。

A：**それが難しいんです。**だったらお金をいっぱい稼いでおいて、貧しい人を少なくして、その後に環境を保全したらいいじゃないですか。
C：環境を守れるような産業をやるとか・・

⇒感情的に言い合うからこそ、表面的な「できごと」だけでなく、下線部のような人々の「行動パターン」や社会の「構造」へと話が深めていけたのではないか。環境保全か経済成長か？　実は、自然や命を守るか、そのためもあってこそ、お金と貧困対策を先にするか？

Aは途上国、B～Cは日本のような先進国と、立場をはっきり演じて追体験したからこそ、感情的な論争に展開したのだろう。そもそもSDGsは国際的に合意した結果とも言えず、構造的な対立を含む途中経過とも言える。2030年になっても再設定が必要と予想できるほど難しい。

斎藤幸平『人新世の「資本論」』(集英社新書)がベストセラーになったのは、学生達と読んでみるに、世界の構造が見えてくるからではないか。ただ、斎藤著はSDGsを「大衆のアヘン」と一蹴する。それも一理あり、世界と国内の格差問題の解決こそ重要なのに、他でうやむやにするからか。そもそも問題は、誰かが提起しないと現われないし、解決されようとしない。訴えた途上国やNGO・NPOがいたのだ。「訴え」に込めた情動、緊張感や切迫感の追体験が要る。

言い換えればSDGsは、何十年も解決できなかった問題群で、国際的に取り組む意志だけやっと合意された目標の集まりと言える。学校では、個々の子がどの立場に立つか・立ちたいか、かつ他方についても想像し合い、両方が折り合う妥協点を模索するような討論練習が要る。

●自分事にし当事者意識までを－教育の課題

私がESDの専門家や先生方と『総合的な学習／探究の時間』(学文社)を編集したとき、キーワードは自分事だと確認できた。とても深刻な地球、世界、地域の問題も、一人一人の学習課題に落とし込めるものか。続きを見よう。

A：環境を考えながら発展**なんて**できないですよね。
D：日本は公害に対する取組をやってきました。
A：あなた達先進国でさえ解決できていない問題を私達(途上国)が解決できると思います？
B：できると思います。
A：**どうしてですか？**　逆に**どうして先進国の人達だけでできないんですか？**
B：今実態として、あまり対策しないで経済発展を進めているのが原因なんです。その原因を取り除かないといけないんです。
A：それを発展途上国の試みとかで解決できるんですか。**お金のない国にできるわけないじゃないですか。**

⇒途上国役のAが感情的に反論し続けている。問題の深刻さが実感できているから、他人事、やったふり、忖度、やらせ、成績・内申書のためを乗り越えた論議にできたのではないか。

国際的な対立や格差は実感しづらいが、実は豊かな国の人々として加担している。当事者になりきって考えさせたい、どころか当事者なのだ。日生連(日本生活教育連盟)が1950年代に、「子どもにおいて目標を見る」という合い言葉で、子どもが問題に感じるであろうこと、生活の中で行き当たるはずの問題を少し先回りしてでも採り上げる実践と研究をめざしたことがあった。その発想がここにも見える気がする。

現実ははるかに深刻だから、SDGsは意義がある。例えば地球温暖化。グレタさんの運動は、あらゆる日本人にとっても他人事ではない。台風、線状降水帯がここ数年ひどい被害を、意外な地域に与え始めたが、地球温暖化の影響なのは、調べればわかる通説なのだ。避難所に行くか行かないかの判断も、コロナ禍にあって深刻だ。『日本沈没』というドラマ(TBS)が妙にリアルで、一つ一つの場面が、部分的な現実と予測の集大成になっており、考えさせられた。

海洋プラスチックは、2050年には魚の量を上回ると予測されている。世界の人々は毎週、クレジットカード1枚分のプラスチックを摂取しているとの調査結果(豪ニューカッスル大学、2019)も出た。他方でコロナ禍のテイクアウトの増加により、より多量に製造・廃棄がされ過ぎて、石油の浪費からしても深刻という。

●折り合うところは？自ら学び動く力へ

A：けっきょく(先進国は)、問題を起こしてか

ら解決していることで元通りにしているじゃないですか。だからやっぱり先に頑張って、経済発展をした方がいいでしょう？（中略）

B：つまりあなたたち（途上国）がいいたいのは、経済発展をしたから公害が起こったけど、それを元通りにできたというのですね。

A：**そうそうそう。**日本も金が優先だった！（私が言ったこと通りになって）**逆転してない？**

B：さっきの（初めの要求）は取消です。

A：**はっ？**

B：日本はお金も大事にしますし、環境の面でも。その両立をめざしています。

A：**あれ（環境優先）は建前だったんですか？**

B：いやあれは本音ですね。建前としては両立です、もちろん。今のは置いておいて・・

A：先進国の方々はどうですか？

C：環境破壊をしてまで経済発展することはないし、・・だから、環境保全をしなければ経済発展はできない。

A：一刻も早くお金持ちにならないと、餓死する人もいっぱいいるんですよ。

B：**餓死ですか？**

C：**困りますね**

A：たいへんな人もいるんです。そういう人のことを**見捨てろというんですか？　日本としてはどうなんですか。**

C：ある程度の犠牲は必要になってくることです。

A：それなら自然を犠牲にすればいいじゃないですか。

C：**どうして自然を犠牲にすれば経済発展できるんですか。**

A：**どうしてですか。**お金がないと対策もできないんだからお金を先に貯めてから

B：それならいい案がありますよ。まず、皆さんは今経済発展しか頭にない人と、環境保全しか頭にない人が言い争っているわけじゃないですか。だから今の日本はそれをうまく両立させるってことを目的として頑張っているわけじゃないですか。だから皆さんも、環境と経済発展を両立させる国を作っていけばいいんですよ。それで、まあ、今の先進国っていうのは昔、発展をするために自然を犠牲にしてきちゃったわけじゃないですか。それで今、発展途上国に不自由させるってのは良くないと思うので、環境への対策に対しては、いろいろな面で先進国が、お金も少し多めに出したりと、優先的なものを国ごとに変えればいいんじゃないでしょうか。どう思いますか。

A：**支援してくれるの？**

C：国ごとにできる対策を変える。財源や規模が国によって違うから。

B：どれだけ貢献するかっていうのを

A：差異のある対策という。

B：そうした方がいいんじゃないですかね。先進国の方がそういう取り組みをして、もちろん優先順位的なものを定めればいいんじゃないでしょうか。どう思いますか？

A：**めっちゃいいと思います！**
めっちゃ、まあ。　（ここで時間切れ）

⇒両立は、言うのは簡単だが実現は難しい。これで感情的には折り合ったようだが、現実世界で有効かはわからない。この討論で子どもたちの認識は変わったといえるが、行動までしてみないと社会の構造は変わらない。何か動き、協力し始め、校外でもNGO・NPO等に関わる・・。

今後の教育に必要な資質・能力とは何か。授業だから討論させられるのでなく、自ら調べてくる、本を読む、会いたい人に会いに行く、大人たちの行動に参加する、自分たちで会を立ち上げる・・。先生に知らせずとも学び、集う力ではないか。そこまで育っていかないと、SDGsは単なる内申書対策や国際道徳にとどまってしまう。学校に行かないグレタさんに同調せずとも、大人世代に向けた怒りは汲みとってほしい。子どもや若者はもっと怒っていいのではないか。

課題は大きいが、当事者になりきって切実に語り、変わり、できれば動ければ、学ぶ意義や生きる意味を自らつかむ子達、そして大人達（地球市民）へと育っていく。知識、技能の意義もわかり、動機付けされる（コア・カリキュラムの発想につながる）。それは今の子達にも、未来を任せ、校外の大人とも協働で社会（地域、日本、世界）を創っていく、建設的だが実は教師の荷が少し下りる道ではないか。

発行所／神奈川県教育文化研究所　〒220-0053 横浜市西区藤棚町 2-197 神奈川県教育会館2F　TEL.045(241)3497